

事ヲ証明スル然レ切兎ハ道德上ヨリ見ル天決スルニ思  
ハント虽野蠻人ニ多ク之ヲ今猶存シテ居ル然レハ明治  
世新ニテ不道德ニ極シトシテ慎ミテ居ルカヤリ  
テ墮胎ヲ若シク種ハタ、ローマ法ノ精神ニ依ルハ出生  
前ノ胎児ハ人ニ非ス人ニアラズカニハ差支ナシトシテ放  
任シタカ如キ感アリ又我民法又其ノ臍頭芽ニ私  
權ノ享有ハ出生ニ始スル旨ヲ規定シテ居ル然レニキリ  
スト其ノ愛情ヲ本旨トシタカ故テ墮胎ヲ犯罪トス  
カニ可カラストレ又日本現行刑法モ其ノキリトスオ我ノ  
内ヨリ按察シタカ法ノ精神ヲ考レ即チ刑法第百十二條ニ  
「懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ胎  
ニシキ時ハ一年以下ノ懲役ニ処ス」トアルキリストノ十  
戒ノ一二判リタリト云フ事ヲ出来ル然レトモ母体ト

胎児ヲ何レカ大切ナルカヲ熟考スル時母体ヨリ大切ナルト  
モハ当然然レ其ノ母ノ身体ハ強健ニナスニ依テ墮胎モ又  
天ヲ惡シキ行為ニテラストモ哲学者ハ「ソノ説  
ヲ立ラタリ亦独逸ノレシテ」哲学者モ婦人ノ体骨ヲ必  
要トナサバ目下独逸ノ刑法ノ條文中「懷胎ノ婦女藥  
物又其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタカ時ハ五年以下ノ懲役ニ處  
テハ徹泰セザル可ラスト唱ヘタリ夫レ又四五ヶ月ヲ経過シタカ胎  
児ハ最其ノ容積ヲ急速度ヲ以テ増進ヲナスモノナシハ六七ヶ月  
行為ナシ其以前ニ何事ノ方法ハ存スルモノト信スル而シテ  
人々ハ早産ヲナスニ差阻カナイ持カラン其時ハ六七月カ  
ハヶ月ヲモ過月ヲ又カマワリサキ夫レハ二三ノ各專門家  
ノ立會ニ依リテ之ヲ爲ス場合ト主治医カ早産ヲ必要  
トナサカ場合トテアル近頃ノ某新聞又ハ雜誌ニ或ハ